

介護を応援する情報誌 [カイゴタイムズ・トーキョー]

# 介護 TOKYO Times



介護のこと新発見。  
地域密着、  
この街と共に。



TAKE  
FREE

02 **人生を彩る場所** 中野ブラザーズ 中野 章三さん  
「リズム・オブ・ライフ」タップダンスと共に歩んだ73年

04 **家族** 有限会社ふくろう介護サービス  
デイサービス管理者 長塚 梨菜さん  
介護福祉士・アロマセラピーアドバイザー 高島 萌さん  
社会福祉士・音楽療法士 一谷 結衣さん  
**地域で支え合う大家族のようなデイサービス**

05 **出逢い『ハピネスあだち』**  
(居宅管理者・在宅部門マネージャー) 福田 大輔さん  
～あなたに“あい”たい～ 半田あいの出逢い輪

06 新しい介護のカタチにチャレンジしてる仲間をご紹介  
**新スタイル発見**

07 **原動力** 一般社団法人水澤 (代表理事)  
水澤 弘之亮さん  
**利用者様からの言葉が介護と向き合うきっかけに**

08 **理念** 株式会社 日本リードケア 空の花 宮前  
(生活相談員・チームリーダー) 一色 敬子さん  
**子どもの成長と共に重ねたキャリア  
理念に基づく実践で成長を実感**

09 **決意** 株式会社ありがたい デイサービスありがたい池袋  
(総施設長、生活相談員) 吉野 奈見子さん  
**演劇部でのボランティアが  
介護を始めるきっかけに**

10 **笑顔** 有限会社ふくろう介護サービス ふくろうデイサービス  
榊原 裕行さん  
**「利用者様の笑顔！」に感じる  
仕事への充実感**

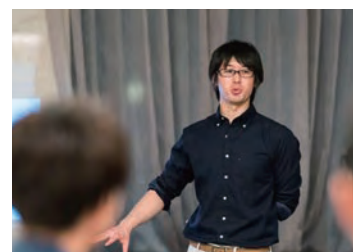
**こころ** ケア・トラスト株式会社 デイサービス一期の家 千川  
(管理者、生活相談員) 馬場 秀二さん

**「人と心が通う仕事がしたい」  
利用者様の笑顔が励みに**

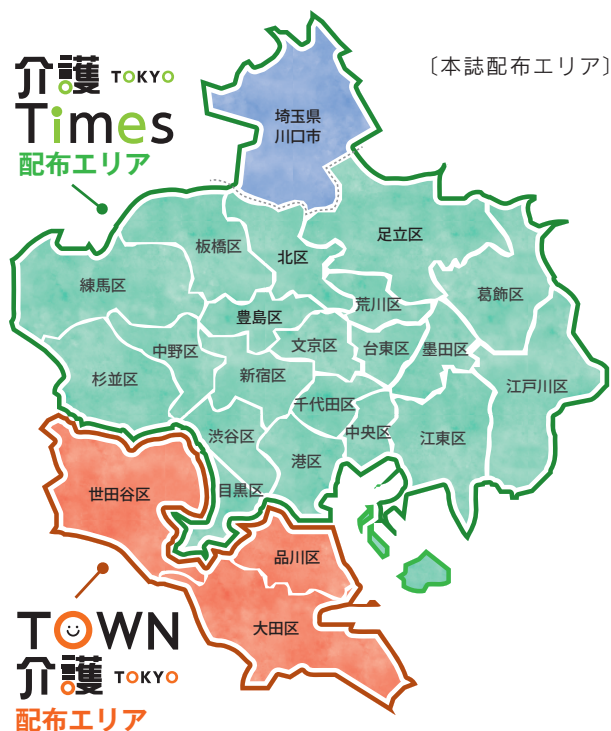
11 **転機** レッツ倶楽部 王子神谷  
(施設長、生活相談員) 本間 信子さん  
**「スタッフが利用者様のことを  
考えている姿が嬉しい」**

12 **心が満ちる人生を 素敵人**  
東京都出身 江東区在住 83歳  
嶺岸 節子さん

**次号予告・メンバー紹介**



「地域」と「人」にフォーカスした  
介護の「今」を伝えるタウン情報誌



# 人生を彩る場所

日々輝いている魅力をクローズアップインタビュー

## 「リズム・オブ・ライフ」 タップダンスと共に歩んだ73年

中野ブラザーズ  
中野章三さん（83歳）



現在83歳で現役のタップダンサー・中野ブラザーズ中野章三さん。1937年東京生まれ。1940年に大阪へ移り、京都などで子役として活躍。1953年16歳の時に上京。2歳年上の兄啓介さんと「中野ブラザーズ」結成。2年後に「江利チエミショー」に出演。1959年には日本人初のラスベガスでのロングラン公演に出演。帰国後60年以上にわたり、数々の舞台やメディアへの出演と同時に振付を行う。2017年からは介護予防プログラムなどを取り入れた「座タップダンス健康法」考案し普及にも力を注いでいる。



1963年、「週間平凡」の表紙で  
江利チエミさんと

### 音・リズム・動きの

### 全てに魅せられた

タップダンスを始めたきっかけは、10歳の時に2歳年上の兄啓介さんと京都で



兄の啓介さんと  
「中野ブラザーズ」  
を結成

一緒に観た映画「踊る結婚式」。「登場する俳優フレッド・アステアのタップダンスがかっこよくてね。足先から音やリズムが出るのが素敵で、音・リズム・動きの全てに魅せられた。兄と絶対にタップやろうと興奮し感動したので覚えていきますよ」と話し、その感動は映画館からステップ踏みながら帰るほどだった。

16歳で兄と上京し中野ブラザーズ結成。2年後の18歳の時に「江利チエミショー」に出演。1959年にはラスベガスのニューフロンティアホテルでのロングラン公演に日本人初の出演を果たした。

ラスベガスのショーに出演している間、ダンスの振付をしてもらっていた先生から、「70歳になってもダンスを教え続けられるような体力と技術を身に付けさせてあげる」と言われ、ショーの間を縫って1日3時間のジャズダンス・クラシックバレエなど様々なダンスを教わった。「本当にそうだったし、今は80歳を超えてもレッスンをしているよ」と笑顔で話す。



ステージやショーに飛び回る毎日

## 兄・啓介さんと強い絆で

### 結ばれていた

ラスベガスでの公演を成功させ、その後は海外でのステージや日本で東京ダイブニーランドのオープニングショーを始め数々の出演をする傍ら、小柳ルミ子さんなど有名タレントの振付も担当してきた。

1980年代から福岡でダンスレッスンを開始。兄啓介さんは東京でレッスンを

クラスを持つについて、普段は離れて生活をしてきたが、中野ブラザーズでの出演について「必ず2人。どちらかが怪我をしたときなどは出演しなかった」と強い絆で結ばれていた。

2016年に生まれ故郷の東京へ戻り、翌年2017年には80歳を迎え、ロサンゼルスでのショーへの出演やテレビの生放送で武道館でタップダンスを披露するなど芸能活動を行ってきた。

## シニア層でも

### 座って踊れるダンスを

また、2017年にはシニア層の健康増進と介護予防プログラムなどを取り入れた座って踊れる「座タップダンス健康法」を考案。

きっかけは、楽屋で椅子に座りステップの確認をしながら、同じ舞台に出演するダンサーに教えていたこと。シニア向けの運動に「エンターテイメント性」を取り入れられるのは、まさにエンターテイメントの歴史を作ってきたからこそ。

「ある映画に椅子に座った状態でライオンダンスのようにタップダンスをしているシーンがあつてきれいなんですよ。これらを取り入れた中野ブラザーズ流の振付の座って踊れる健康法が考案された。」

## 83歳 元気の秘訣は

元気の秘訣について話を伺うと「元気の秘訣はレッスンで生徒全員に届く声で指導することです」とのこと。時には、厳しく指導するときもあるそうだが、それは成長を願うがゆえ。加えて人に教えながら足を動かすことも健康に繋がっていると話す。

食事でも自炊が多く腹6分目、酢の物、野菜を多めに摂ることを意識。よく見るとお肌も若々しい。若さを保つ秘訣は「油を使った料理も適度に摂っているから。お肉も好きで、とんかつやフライドチキン好きなどの揚げ物も好きなんです」と話す。

生活リズムも「自分に合ったリズムを崩さず生活」を心がけ、「歩くことが楽しみで1日大体1万歩、多い時には1万5千歩くらいは歩きますよ。」

## 足が動く限り踊っていたい

今後の目標は「足が動く限り踊っていたい。いつまでも踊ること。さらにいまの生徒は50代・60代の方が多い。もつと若い世代の人たちにもこれまで培ってきた経験を基に『中野ブラザーズ流のタップダンスを通してダンスの楽しさ』を伝えていきたい」と語ってくれた。

中野章三さんが考案した、椅子に座って誰でも簡単にできるタップダンスプログラム。 **座タップダンス健康法** は動画でご覧いただけます。ぜひお試しください。

YouTube



①ウォーミングアップ編



②基礎ステップ編

若々しく  
瑞々しく  
美しく  
座タップで  
健康長寿!



ライター 笠原 正寛

# 生まれ育った町で母の遺志を受け継いだ三姉妹 目指すのは「地域で支え合う大家族のようなデイサービス」

デイサービス管理者

介護福祉士・アロマテラピーアドバイザー

社会福祉士・音楽療法士

梨菜さん（長女）

萌さん（次女）

結衣さん（三女）

「亡くなった母の想いを引き継いで、生まれ育った町で誰もが遊びに来られるデイサービスを作っていきたい」と話すのは、池袋本町にあるふくろうデイサービス管理者で長女の梨菜さん、介護福祉士でアロマテラピーアドバイザーでもある次女の萌さん、社会福祉士で音楽療法士の三女結衣さん。

ふくろうデイサービスが開設されたのは平成15年5月。「母が運営していた接骨院に高齢で通うことが困難になった



患者様へ往診をしたり食事を届けていたが、デイサービスならマツサージも食事も提供ができる」という想いから開設された。

最初にふくろうデイサービスに入ったのは長女の梨菜さん。大学卒業と同時に入社を決めた。「幼い頃から母が患者様と楽しそうに関わっている姿を見てきて、また自分自身も高齢者と一緒にいる空間が居心地よく自然と一緒に働きたいと思った」。続いて、三女の結衣さん、次女の萌さんが「デイサービスと家族を支えていきたい」という気持ちから加入し、現在の運営体制となる。

三姉妹での運営の強みは家族ゆえの信頼感。「目標としているところや想いが共通しているから何でも言い合えるんです」と萌さん。



現在は、梨菜さんがお腹にいる頃から知っている患者様や三姉妹がお世話になった保育園の職員さん等が通っており、生まれ育った地域ならではのご縁や繋がりを持つ事ができている。

母から引き継いだ想いに加え、違う道を行ってきた三姉妹ならではのアイデアや意見が沢山生まれ、ユーモアのある取り組みを行っている。「演奏会や職員によるショー、地域の人を巻き込んだイベント等、利用者様に楽しんでいただけるよう日々考えております」と結衣さん。

「私たちにとって“地域は家族”なんです」この言葉に、これからも生まれ育った町で誰もがふらっと気軽に立ち寄れる、地域で開かれたデイサービスでありたいという、今の三姉妹の思いが感じられた。

## プロフィール

有限会社ふくろう介護サービス

（ふくろうデイサービス）

● 長塚 梨菜

代表取締役（管理者・生活相談員）

● 高島 萌

取締役（生活相談員）

● 一谷 結衣

取締役（生活相談員）

本誌「8月号」表紙モデル



萌さん（次女） 梨菜さん（長女） 結衣さん（三女）

# あなたに“あい”たい

## 半田あいの出逢い輪

ご活躍されている方からのご紹介でひろげる、出逢いの輪

Vol.2

つながり

『ハピネスあだち』(ユニット型・特別養護老人ホーム/足立区江北)  
居宅管理者・在宅部門マネージャー 福田大輔さん



出逢い  
第2輪

今回ご紹介いただいたのは、福田大輔さんです。

福田大輔さんは、ハピネスあだち開設時(2006年)に入社。現在は居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、デイサービス(一般型・認知症型)、ショートステイと5事業所のマネージャーという立場に加え、ケアマネージャーとしての実務もこなし、デイサービスの送迎も買って出るという現場派の統括者。更に昨年、足立区では初開催となった「RUN伴」(認知症啓発イベント。当事者・家族・支援者・一般の方がタスキを繋いでリレーする全国規模のプロジェクト)実行委員長や、和太鼓「鼓風の会」メンバーとして高齢者へ演奏を届ける等幅広い活動をされている。42歳。そんな活動的な福田大輔さんに、今回お話を伺いました。

一般企業から転職

「パソコンを教える仕事をしていた時ずっと通っていたら80歳代の女性が突然来なくなったのです」心配になるも、確かめる手段がない。「どうされているのかという思いから、高齢者の生活や関わる人についての興味が湧いた事がきっかけで福祉の専門学校に通いました」25歳から2年間学び介護福祉士を取得後、現施設で働き始めます。

認知症ケアの知識を深めたい

「その時々々の目標をクリアしてきた感じですが」介護支援専門員(ケアマネージャー)、社会福祉士資格も取得され、東京都認知症介護指導者でもあり、新たに精神保健福祉士の養成校で勉強中だという福田さん。「これから高齢化がピークを迎える時に切り離せない認知症の問題。安心して暮らせる地域ができればと考えています」同時に家族支援にも力を入れます。「ご家族だからこそ、感情が先行してしまう事もありますよね。認知症の知識を繰り返しお伝えして、互いにストレス無く一緒に過ごせるような支援をしていきたい」

明るい未来を切り拓ける存在に

「後進の育成にも尽力したいです。福祉業界の明るい未来を目指してくれる後輩の為に、ある意味、私を憧れと思つて貰えるようなキャラクターになれたら」これまでと変わらず、「やってみたら世界が変わるのでは!」という前向きな推進力を高めていきます。

### ●インタビューア-半田あい



・フリーアナウンサー  
・介護福祉士  
自らが培ってきた  
目線から  
「介護を伝える!」

☆現場で働きながらの資格取得や新たな勉強は、相当なエネルギーを要する事です。その一つ一つがしっかりとした学びによって福田さんの土台となり、身に付いていく。専門家として何よりの説得力であり、私自身は省みる時間にもなりました。「イメージはジェネラリスト。一人でできる事は限られているが、協力していく事で広がりを見せる。そこで繋ぐ役割にもなりたい」「事業者ではあるが、私も”区民の一人”という考え方もします」多角的な視点が繋がりを生むというお話も。

明るい未来の為、まずは是非、福田さんのマインドに触れていただきたい。そんな思いを抱きました。私にとっては既に”憧れ”です!



福田 大輔さん



ハロー。カイゴ  
新スタイル発見  
It's NEW

新しい介護のカタチにチャレンジしてる仲間をご紹介します

原動力



『ケアベースこうのすけ』  
一般社団法人水澤  
(代表理事)

水澤 弘之亮さん

理念



株式会社 日本リードケア  
空の花 宮前  
(生活相談員・チームリーダー)

一色 敬子 さん

決意



株式会社ありがたい  
デイサービスありがたい池袋  
(総施設長、生活相談員)

吉野 奈見子 さん

笑顔



有限会社ふくろう介護サービス  
ふくろうデイサービス

榊原 裕行 さん

こころ



ケア・トラスト株式会社  
デイサービス一期の家 千川  
(管理者、生活相談員)

馬場 秀二 さん

転機



レッツ倶楽部 王子神谷  
(施設長、生活相談員)

本間 信子 さん

私たちの思い 笑顔咲く介護の未来へ届け

# 原動力

利用者様からの言葉が  
介護と向き合うきっかけに

「現在は重度訪問介護が

ライフワークの一つ」



『ケアベースこうのすけ』

一般社団法人水澤（代表理事） 水澤 弘之亮さん

高校球児だった水澤さん。高校卒業後にスポーツ系専門学校でヘルパーの資格を取得。上京し就職した会社で訪問介護事業所に配属されキャリアがスタート。着々と経験値を積んでいった最中、サービスに入った利用者様の言葉が、自身の介護に対する向き合い方を見つめ直すきっかけとなる。現在は「重度訪問介護がライフワークのひとつ」と話す。



水澤 弘之亮さん

高校卒業後は、理学療法士を目指し専門学校を受験するが叶わず。一年後、スポーツ系専門学校を受験し見事合格。入学後、ヘルパーの資格を取得した。

当時を振り返ると「この時理学療法士の学校の入学が叶わなかったという経験できて良かった」。理由は「この時受かっていたら、きっと他人のことを考えるという意識が薄いままの理学療法士になっていたかもしれない」と話す。専門学校卒業後、富山から上京し大手の介護事業会社に就職。ここで訪問介護事業所に配属される。この人事が現在の「訪問介護事業所ケアベースこうのすけ」に繋がっていくことに。



新卒で入職した会社で経験を積んだのち、新規の訪問介護事業所の立ち上げにヘルパー参加。「ALS（筋萎縮性側索硬化症）の方のサービスに入ることになり、ある言葉を頂いたんです」と教えてくれた。その言葉は文字盤で「失格」。

「当時は経験も積んで、仕事に自信も出てきた最中のことで聞いたときは本当にショックでした。」と話す。それでも辞めずに続けたのは「このままではやめられない」という思いと、頂いた言葉と「本来介護とは何なのか」ということに本気で向き合ったから。



この出来事を自身の糧とし、まず最初にしたのは「そのように言わせてしまつてすみませんでした」と伝えたこと。

それからは「利用者の方が必要としているのは何なのか」ということに徹底的に向き合った。

重度訪問介護がライフワークの一つにま でなった理由を尋ねるとこのように答えてくれた。「これまで利用者さんに育ててもらったので、教わってきたことをお返ししていきたいと思っっているから、ライフワークになっっているんです」

現在は、「一般社団法人水澤」の代表理事を勤め、これから介護を志す人に向けてのメッセージをお願いと「訪問介護は新卒でもできるし、自信をもってほしい」とのこと。介護を担う人材の育成にも力を注いでいきたいと話す。



# 理念

## 子どもの成長と共に重ねたキャリア 理念に基づく実践で成長を実感



株式会社日本リードケア  
空の花 宮前（生活相談員・チームリーダー） 一色 敬子さん

杉並区にある「空の花 宮前」で生活相談員として活躍している一色敬子さん。子育てと両立しながら送迎ドライバーとしてキャリアをスタート。「理念を基

今の環境はすごく楽しい」と声を弾ませて話す。

送迎ドライバーとして働き始めたきっかけは、母の知人のデイサービスで募集



一色 敬子さん(一番左) チームみんなと一緒に

があり、介護業界は未経験だったが「自宅からも近く子育てと両立でき車の運転が好きなので自分でもできるのでは」という思いだった。

働くまでは介護業界に対するイメージは世間で言われるような、いわゆる「大変な仕事」だったが、利用者様と接していく中で「大変なことだけではなく楽しい仕事なんだ」と新鮮だった。

現場のスタッフとして働くきっかけとなったのは、当時の



佐藤社長(中央左) 一色さん(中央右)

管理者に、「社会福祉主事として必要な科目を履修している可能性があるよ」と言われ、卒業した大学に問い合わせたところ要件を満たしていることが分かったからだった。

最初は子育てと両立しながらの働き方だったが、お子様の幼稚園で一日預かりが可能になったタイミングで、生活相談員としてフルタイムで働くことに。まさに子どもの成長と共にキャリアを重ねていった。

生活相談員として経験値を重ねた後に、以前一緒に働いていた仲間から誘いをもらい現在の「空の花 宮前」へ入社。面接

時に社長から聞いた理念に共感したことが決め手となった。  
入社後これまで大切にしてきたのは「会社の理念に基づいて考え利用者様に接すること」。

「新型コロナの影響で関係各所と連絡を控えていた中、新規利用や見学の問い合わせが数件あつたんです」と嬉しい出来事が。理念を考えの軸に置いてスタッフが一丸となって取り組んできた結果を実感できた瞬間だった。

現在は、「利用者様のご家族と関わり困っていることに対して提案が出来たり、ケアマネージャーとのやり取りなど含めて、人と人とのつながりで物事がすすんでいくこと」にやりがいを感じている。「今後もステップアップをしていきたい」と笑顔で教えてくれた。



後藤副社長(左) 一色さん(右)

# 決意

## 演劇部でのボランティアが介護を始めるきっかけに 利用者様から教わった「一日一日の大切さ」

3

株式会社ありがたい

3 デイサービスありがたい池袋（総施設長、生活相談員） 吉野 奈見子さん

高校時代は演劇部に所属していた吉野 奈見子さん。老人ホームを題材にした舞台をすることになり介護施設へボランティアに行くことに。この経験が介護を志すきっかけとなった。高校卒業後は迷わず福祉系専門学校へ入学。その後就職したデイサービスで出会った利用者様に気付かされた「一日一日を大切にしていこう」ことを日々実践している。

演劇部の劇は新人介護士の奮闘を描いた作品で、吉野さんは裏方として演出



吉野 奈見子さん

面などをサポート。タイトルは「老人ホームひまわり園」。新人介護士の奮闘を描いた作品だった。この劇を作り上げるために行った介護施設のボランティアで「こうやって高齢者と接するところが好きなんだ」と気付いた。

ボランティアで印象に残っているのは「普段車いすを使用している人が自ら歩いた」場面に居合わせたこと。実際に「嬉しさ」を感じる事ができたからこそ、劇にリアリティを持たすことができた。

高校卒業後は、福祉系の専門学校へ入学。介護について学び始めた矢先に曾祖母が亡くなった。曾祖母の介護は祖母がしており、老老介護状態だったと後から知ることになった。この時に「もっとデイサービスなどを利用していれば、楽しくすごせたのではないかな。私がかもつと

早く介護について学ぶことができていたら」と後悔に似た思いを感じた。

このことから「高齢になってご自宅で過ごしていることが多くなってしまった方や介護について詳しくない方の手助けをしたい」と介護業界で働いていく決意をした。

新卒社員として初めて働いたのはデイサービス。ボランティアで施設に行った時や学生時代は、利用者様が介護事業所にいることは普通なことと思っていたが、そうではなく「介護を受けることで人に迷惑をかけるかもしれない」という思いを持たれている方もいるという現実を知り、「明るく楽しく接する」事だけが、寄り添うことではないと気付かされた。



もう一つ印象的なことが。いつも楽しくお話をしてきた80代の利用者様がいつも通り帰った翌日突然亡くなったことだ。「本当にショック

な出来事でした。だけど、毎日元気で来てもらえることの大切さ、一日一日を楽しかったと感じてもらおうことの大切さを教えてもらいました」と吉野さん。

その後、現在のありがたいに入社。入社を決めた理由は「利用者様のためになることであれば何をしてもいいですよ」と言われたこと。総施設長となった現在も「スタッフとともにできない理由を探すのではなくどうしたらできるのかを一緒に探すこと」を意識している。

この仕事を続けている理由は「その日その日を丁寧に。毎日楽しかったと笑顔で帰られる利用者様を見送れるからです」と力強く答えてくれた。

# 笑顔

## 「利用者様の笑顔！」に感じる仕事への充実感

4 有限会社ふくろう介護サービス ふくろうデイサービス 榎原裕行さん

池袋本町1丁目の商店街内にある「ふくろうデイサービス」で入浴介助やレクリエーションなどを担当している榎原裕行さん。とにかく「人が好き」で利用者様とのレクリエーションや外出も一緒に楽しみ「笑顔が見れることが幸せ」と話す。趣味は映画鑑賞。生まれ変わったら映画監督になりたいくらい映画も好き。



榎原さんが主に担当するのは入浴介助やレクリエーション、そして送迎。朝、利用者様を迎えにいくと自然と笑顔がこぼれる。お一人おひとりその日一番最初に挨拶を交わせるということもあって大切にしている仕事の二つだ。

レクリエーションでは、脳トレやスポーツの要素を取り入れた内容を、その日の利用者様の様子に合わせて提案をしている。「レクリエーションをするときは、皆さんまんべんなく楽しんでもらえることを大切にしている」と榎原さん。

さらに「笑顔で喜んでレクに参加してくれる利用者様を見ていると幸せな気持ちになるんですよ」とも話してくれ、この優しさがレクリエーションを盛り上げる要素のように感じ

られた。

介護の仕事を始めようと思っただけ「人が好き」だから。人が



榎原 裕行さん

喜んでくれることが「何よりも嬉しい」から選んだ。元々おばあちゃん子だったことも影響しているのかもしれないが「やっぱり人が好きということに尽きるね」と榎原さん。

レクリエーションの一環として、月に一回、回転寿司へ外出に行つた際「おいしそうにお寿司を召し上がっている利用者様と語らう時間が最高に楽しい」と話す。さらに「帰りがけに見られる皆さんの満足そうな表情」に充実感を感じている。

仕事のやりがいは「利用者様の笑顔」が見られること。外食も室内レクリエーションも入浴介助も一つひとつ手を抜かないのは「笑顔」が見たいから。

さらに「いつも周りに笑顔の利用者様がいる」ことに感謝していると話す。写真からも伝わる周りを明るくしてくれる雰囲気、榎原さんだからこそ、周りに笑顔が集まってくるのだと感じた。

## 「人と心が通う仕事がしたい」利用者様の笑顔が励みに

5 ケア・トラスト株式会社  
デイサービス一期の家千川（管理者、生活相談員） 馬場秀二さん

東京都豊島区にある「デイサービス 一期の家千川」。ここで管理者をしている馬場秀二さん。

介護を始めたきっかけは転職活動していた時に、説明会で現在働いている会社の話を聞いたこと。「人とかかわりの中で働いていける」というところに魅力を感じて、それまで勤めていた飲食業界から心機一転、介護業界に飛び込んだ。

働き始めたころは大変なこともあったが、「利用者様の笑顔が見られることを目標に日々頑張った」とのこと。今でも大切にしていることは「皆さんに楽しんでもらいたい。1日1日楽しかったと感じてもらいたい」と話す。

そのために、心がけていることを伺うと「アットホームな雰囲気を作ること」。接遇を意識



したうえで「自分の祖父母に對する親近感といますか、居心地の良さを感ずるよう

お話ししたりさせていたです」と話す。



馬場 秀二さん

現在の仕事の魅力について伺うと「お一人おひとりに合わせた接し方を真剣に考えること」。心を込めて考えることで心が通じ合うことに繋がりが、まさに介護業界を志した時と変わらず「心が通う仕事」だ。

3年目の今は、レクリエーションにも馬場さんの趣味を活かされている。「特撮ヒーローの衣装を手作りして利用者様の前でパフォーマンスのように登場するんです」。その後、仮面を取って「スタッフが仮装していたこと」を伝えるととても楽しそうにしてもらえるんです。

これからの目標を伺うと、「変わらず利用者様の笑顔が見られるような『家』にしていこう」と。優しい表情の中に、実現に向けた強い思いを感じられた。

# 転機

「スタッフが利用者様のことを考えている姿が嬉しい」  
 やりがいはスタッフの頑張る姿

6 レッツ倶楽部王子神谷（施設長、生活相談員） 本間 信子さん

東京都北区豊島にあるレッツ倶楽部王子神谷店の管理者本間信子さん。平成18年に介護業界へ入り、訪問介護やデイサービスなどで介護職員としてキャリアを積み重ねてきた。現在は、スタッフの仕事を見守ることで見えてくる「スタッフが利用者様と向き合っている姿」に嬉しさを感じると話す。

介護業界に入ったきっかけは身内の介護を経験したから。「ヘルパーだった母と祖父の介護と一緒にしていたんです。その時に、祖父が利用していた訪問看護と通所介護のスタッフ



フさんを見て、私も勉強しようと思った」ことが転機となった。資格取得後は訪問介護事業所でキャリアをスタート。「当時は



決まったサービスを提供することに一生懸命でした。」と話す。その中で、「お一人おひとりに合った動きやサービスの提供方法を考えてきました」と当時を振り返る。その後、デイサービスなどでの勤務を経て現在に至る。



本間 信子さん

現在も介護職を続けている理由について「経験を重ね、お一人おひとりのご様子に合わせてサービスを提供できるようになったことで、この仕事への魅力がどんどん増してきました。」と話す。

現在の魅力について伺うと、「スタッフ全員が利用者様のことを考えながら仕事をする姿を見ていると嬉しい」と本間さん。日々のスタッフ一人ひとりへの細やかな心配りが伝わってくる言葉だった。

趣味について伺うと、今後やってみたくいことはアウトドアというアクティブな一面も。今、チャレンジしたいことはなんと車中泊。仕事も趣味も楽しんでいきたいと話す笑顔がとても印象的だった。

## 施設送迎の問題を解決します

- ◇プロのドライバーが担当
- ◇必要な時に必要な期間のご契約
- ◇安心の保険加入
- ◇車両清掃・施設内補助業務対応



当社は安全運転を第1に、事業開始より無事故無違反で、都内15施設の実績を有します。まずはお電話にてご相談ください。

## 送迎運転代行スワールサービス

TEL 080-9108-0563  
<https://swirl-service.com/>  
 東京都公安委員会第 300277 号

一 介護経営サポートシステム

## SuisuiRemon

実際に現場で働くスタッフの意見を取り入れながら、常に「使いやすさ」を追求して改良し続けています。 **Suisui**ちゃん

**各種介護保険サービス、障害者総合支援、自費サービスに対応!**

全国5,500事業所様で  
利用中!

全国の  
ユーザ様も急増

介護のセントケアグループ運営の  
抜群の安心感

**SuisuiRemon導入 6つのメリット**

|                              |                          |                     |
|------------------------------|--------------------------|---------------------|
| 売上・入力・債権の明細を一元管理             | 返戻でお困りの方は効率的な入金管理で回収率アップ | 複数事務所の一括管理          |
| 簡単便利なスケジュール作成&多彩な入居一時金、前受金管理 | 介護企業としてのノウハウを活かした介護関連帳票  | 簡単・便利な保険外サービスの登録・管理 |

**経営・運用資金改善、業務効率化、経費削減にも貢献します!**

**●早期資金化 ●他社記録連携 ●業務効率化の口座振替サービス**

**安心のサポート 電話 FAX・E-mail リモートサポート**

**バージョンアップも自動更新**

**アセスメント特化型システム**

👩 **看護のアイちゃん**

訪問看護アセスメント・業務支援システム

メリット1 アセスメントの標準化を支援!放送大学大学院 山内聖明教授監修!新アセスメント手法!完全搭載

メリット2 看護の質を保証!

メリット3 帳票運動により業務負担を軽減!

メリット4 お客様によるバージョンアップは不要!

**全国約540ヶ所の在宅介護を運営するセントケアグループの運営書式集ツール**

**コンフォーム・パッケージ**

1.リスクヘッジ

コンプライアンスの整備から制度改正に迅速に対応することができます。

3.本部機能の強化

本部主導での統一書式の整備や現場からの質問等に対して迅速な対応を可能にします。

2.管理コストの抑制・削減

制度対応や研修プログラムの作成等、見えにくい管理コスト(人員)の抑制を可能にします。

4.サービスの質の担保

新規スタッフのOJTツールおよび毎月の研修ツールにて研修体制を構築できます。

**法定書式集**

運用マニュアル

研修内容

saint-works

介護のセントケアグループ  
セントワークス株式会社

《TEL.03-5542-8097》

心が満ちる人生を

# 素敵 人

すてきびと



東京都出身 江東区在住 83歳  
嶺岸 節子さん

vol.1

## 「麻雀は生きがい」 75歳で見つけた新たな楽しみ

「今の楽しみは麻雀しながらお友達とのおしゃべり。たくさんのお話を学べて成長するのよ。それと孫に会うことかね」と柔らかな表情で話すのは、江東区在住の嶺岸節子さん(以下、節子さん)83歳。地域にある高齢者向け健康麻雀サークル2箇所に参加し、週3日友人との交流を楽しんでいる。孫について「家に来てくれると嬉しいよ。みんな素直で最高」と語り、今回は近くに住む孫の嶺岸海美さん(以下、海美さん)も同席してくれ、節子さんとの思い出などを話してくれた。

現在通っている健康麻雀サークルは、月曜日の週1回クラスと水・土曜日週2回クラスの計3回休まず参加していて、「お弁当を持って行って、1日麻雀しながらお友達とお

話してくるのよ」と楽しそうに教えてくれた。

嶺岸さんが麻雀を始めたのは、なんと75歳から。きっかけは、5年前に亡くなった夫の勇さんに誘われて水・土曜日のサークルに一緒に行ったことだった。「最初は、男性ばかりで怖そうで嫌だったんだけどね。じいちゃんに誘われたし、ずっと家にも仕方ないし、認知症予防になるってテレビでやってたからルールも分からなかったけど行って見たの」と振り返る。

続ける理由は「最初はルールや役を覚えられなくてね。失敗すると怒られるでしょ。本当に大変だったの。でもね、続けていくと段々上手になるでしょ。そうするとねもつと

上手になりたいと思うのよ。その繰り返しでやってるのよね。今は麻雀が生きがいよと話す。

さらに、今まではひざの痛みなどを気にして遠くまで歩くことを控えていたが、現在は、麻雀会場まで片道25分の距離を一人で歩いて通っている。ひざの痛みについて伺うと「身体を動かすのはいいことだし辛くないわよ」とはつつと教えてくれた。

同席してくれた海美さんに節子さんとの思い出を聞くと、「一回も怒られたことがないことかな」との答え。さらに話を聞くと、「小学生のころ、いつも怒らないばあちゃんを怒らせてみようと思っただけにいっぱい悪口を書いて渡したの。そうしたら、上手にかけたねと褒められちゃった」と、いたずらをした時のエピソードを話してくれた。

海美さんは4月から新卒で介護現場で働き

始めたばかり。きっかけは、おばあちゃんや近所の高齢の方に接してきたこと、誰かの人生の最後に関わり楽しい時間を共有したいという思いから。

今のやりがいを聞くと、「利用者さんに名前を覚えてもらったり、『ありがと』と言われることかな」と照れたように教えてくれた。その横では、孫が話にうんうんと頷く節子さん。海美さんの話を最後まで嬉しそうに聞いていた。



夫の勇さんから麻雀サークルに誘われたのが始めたきっかけ

☆☆



イラストを描いた人  
富ヶ原祐子さん

Mizu-yuu 兼 紡笑(代表)  
福祉施設や地域コミュニティなどにてネイルケアを中心に  
皆が笑顔になる  
サービスを展開中。



ライター 笠原正寛



TOWN  
介護 TOKYO

介護 TOKYO  
Times

10月号は10月15日  
発行予定です

次回10月号の  
表紙の人



介護コンサルタント 若山克彦さん



訪問看護師 小川真人さん

※本誌の内容や発行日は予告なく変更になる場合があります

Members Introduction  
メンバー紹介



発行人

高橋 寿光



発行人及び編集長

藤井 寿和



カメラマン

近藤 浩紀



インタビュアー

半田 あい



記者・営業

笠原 正寛



ライター

中澤 真弥



ライター

塩野 涼子



ライター

羽吹 理美



アドバイザー

小林 弘和



事業責任者

戸田 昂志



総務責任者

岩崎 巧磨

発行所 株式会社 是眞  
〒115-0041 東京都北区岩淵町 32-11  
TEL.03-5939-6682

企画・編集 株式会社 是眞 合同会社 福祉クリエイションジャパン

発行予定 2月、4月、6月、8月、10月、12月

介護施設・広告掲載のお問い合わせは  
株式会社 是眞

☎ 03-5939-6682 まで

■本誌記事・写真等の無断転載、使用を禁じます。

# ライフインフーズの 食材販売

介護事業所向け



安心の食材を、美味しい献立で

新鮮な食材を、献立に合わせて人数分配送いたします。

市場直結発注システムで廉価でお届けが可能。

その日使う分だけお届けするので、食材の無駄がない。

栄養士がバランスを考えた美味しい献立を作成します。

群馬県内

100施設  
以上の実績

旬の食材を使用した“季節を感じるメニュー”も提供し、  
施設で暮らす皆様に、食事を通して四季のながれを楽しんで頂く事を心掛けています。

1日  
3食 +60円でおやつをつける事も可能です

# 490円

(税別)

朝130円 / 昼180円 / 晩180円 お米・調味料別

〈例〉20名様利用の場合

1日3食 650円の場合

年間 4,745,000円

1日3食 490円の場合

年間 3,577,000円

年間 **-1,168,000円**  
※コストダウン!

[ご利用にあたり]

- 20名様以上でお届け致します。
- 食数確認は、前日の午前9時までをお願いいたします。
- 配達は、水・日曜日はお休みです。休日前に、2日配達いたします。



詳しくは… ライフインフーズ 検索

<http://www.lifeinfoods.co.jp>



対応エリア

練馬区、板橋区、足立区、北区、豊島区、川口市  
クックフリーズも対応しておりますので、ご相談ください。

お問い合わせはお気軽に! ☎ 0120-099-955

群馬県伊勢崎市下植木町624-3 TEL.0270-23-3838 FAX.0270-21-5432



食をトータルコーディネート

ライフインフーズ株式会社

個人さま・法人さま

# 取材先募集。

目指す介護を

発信しませか？

掲載  
無料



介護を応援する情報誌 [タウンカイゴ・トーキョー]

## 本誌へ掲載する記事で大募集

取材・広告に関するお問い合わせはこちら

▶▶ 株式会社 是眞 〒115-0041 東京都北区岩淵町32-11 電話03-5939-6682

有料広告募集

# 伝えたい人に伝える広告

ターゲットに直接届く広告

印刷・掲載のコミコミ価格

広告サイズ多数対応(1/4~フルページ)

## TOWN介護 広告主募集